

新潟大学 倫理審査委員会 オプトアウト書式

①研究課題名	嚢胞形成プロラクチン産生下垂体腺腫の治療成績
②対象者及び対象期間、過去の研究課題名と研究責任者	対象者：2014年4月から2024年3月までにプロラクチン産生下垂体腺腫の診断で当科外来通院した症例のうち、液体貯留を示す嚢胞形成を伴う症例。 過去の研究課題名：なし。
③概要	ホルモン産生下垂体腺腫のうちプロラクチン産生下垂体腺腫は、ドパミンアゴニストであるカベルゴリンの導入により症状改善のみならず、摘出せずに腫瘍が縮小・消失するようになりました。しかし腫瘍内部に液体貯留を示す嚢胞形成プロラクチン産生下垂体腺腫のうち視野異常を伴う場合、カベルゴリン投与かそれとも早期の視野の回復を期待して外科的摘出か迷う症例に遭遇します。そこで本研究では、当院における嚢胞形成下垂体腺腫を含むプロラクチン産生下垂体腺腫の治療成績を後方視的に総括し、今後の嚢胞形成プロラクチン産生下垂体腺腫症例の方針を考察します。
④申請番号	2019-0186
⑤研究の目的・意義	当院における液体貯留を示す嚢胞形成プロラクチン産生下垂体腺腫の治療成績を総括し、視野異常と伴う嚢胞形成プロラクチン産生下垂体腺腫の治療方針（手術または薬物療法）を検討します。
⑥研究期間	倫理審査委員会承認日から2027年03月31日まで
⑦情報の利用目的及び利用方法（他の機関へ提供される場合はその方法を含む。）	電子カルテに保存されている病歴及び画像を利用します。使用するデータは個人が特定されないように匿名化を行い、研究に使用します。研究の成果は、学会や専門誌などの発表に使用される場合がありますが、名前など個人が特定できるような情報が公表されることはありません。
⑧利用または提供する情報の項目	年齢、性別、腺腫の大きさ、嚢胞の再長径、症状（視力視野障害、無月経、乳汁分泌、頭痛）、下垂体卒中の有無、治療法（内視鏡的経鼻経蝶形骨洞手術またはカベルゴリン投与）、治療後の嚢胞の縮小・退縮の有無、治療後プロラクチン値を調査します。
⑨利用する者の範囲	新潟大学脳研究所脳神経外科学分野 新潟大学医歯学総合病院脳神経外科
⑩試料・情報の管理について責任を有する者	新潟大学脳研究所脳神経外科学分野 教授 大石誠
⑪お問い合わせ先	本研究に対する同意の拒否や研究に関するご質問等ございましたら下記にご連絡をお願いします。 所属：新潟大学脳研究所脳神経外科学分野 氏名：岡田正康

	Tel : 025-227-0653
--	--------------------

	E-mail : <a href="mailto:shindainougeka@bri.niigata-u.ac.jp">shindainougeka@bri.niigata-u.ac.jp</a>
--	---